

第6回 唐津市都市計画マスタープラン等策定委員会 議 事 録

日 時：令和6年1月22日（月）10:00～11:00

場 所：唐津市役所3階 災害対策本部 会議室

・参加者：委員：以下のとおり

<学識経験>

【委員長】 坂井 猛 ：九州大学キャンパス計画室 教授
後藤 隆太郎：佐賀大学理工学部 教授（欠）
猪八重 拓郎：佐賀大学理工学部 准教授（欠）
林 博徳 ：九州大学大学院工学研究院 准教授

<関係団体>

木下 修一 ：唐津商工会議所 副会頭（欠）
松本 弘 ：唐津農業協同組合 代表理事副組合長
太田 順子 ：一般社団法人唐津観光協会 副会長
松崎 義行 ：昭和自動車株式会社自動車事業本部乗合事業部 部長
大鶴 将司 ：九州旅客鉄道株式会社佐賀鉄道事業部企画運輸課 課長
中村 重美 ：公益社団法人佐賀県宅地建物取引業協会唐津支部 顧問（欠）
吉田 善道 ：社会福祉法人唐津市社会福祉協議会 会長（欠）
平野 直人 ：唐津地区建築士会 理事

<行政機関>

天本 貴子 ：佐賀県県土整備部まちづくり課 課長
岸川 俊介 ：佐賀県唐津土木事務所 所長
山本 智史 ：佐賀県唐津農林事務所 所長（欠）
八島 大三 ：唐津市経済部 部長
岩熊 真一 ：唐津市都市整備部 部長

<アドバイザー>

外尾 一則 ：佐賀大学 名誉教授（欠）

<その他>

佐賀県まちづくり課

事務局：唐津市 都市整備部 都市計画課

委託業者：大日本ダイヤコンサルタント（株）

・協議資料：次第

- 資料1 都市計画マスタープラン地域別構想案（まちづくりの目標及び重点方針）について
- 資料2 立地適正化計画（誘導施策案）について
- 資料3 立地適正化計画（防災指針）について

・質疑内容：以下のとおり

(1) 都市計画マスタープラン地域別構想案（まちづくりの目標及び重点方針）について
※質疑なし

(2) 立地適正化計画（誘導区域案）について
※質疑なし

(3) 立地適正化計画（防災指針）について
林委員：

取組方針の「流域治水の推進」に関して、河川や流域が専門であるため、コメントしたい。
農地などが居住地や商業地などの用途で開発された場合、透水能力が落ちて水が増え、水害が発生する恐れがある。そういった意味で雨水の貯留や流出抑制は重要である。また、貯留した雨水は生活用水として再利用できるなど、レジリエンスを高める側面もある。

宅地等の開発者に協力してもらわなければならないため、協力したくなるようなインセンティブもあわせて検討できたらよい。

「避難タイムラインの作成の推進」に関しては、住んでいる地域でどういうリスクがあるかを、住民自らが把握しておくことが重要である。行政の資料は一般の住民には難しい印象があるため、住民との連携に向けて、防災教育の取組を推進してはどうか。

都市マスの地域別構想では、地域の魅力として水辺の存在があげられていたが、一方でリスクも存在することも知ってもらう必要がある。楽しみがないとこういった取組は進まないと思うので、魅力とリスクをセットで検討してはどうか。

事務局：

インセンティブに関しては、次回委員会で実現化方策をお示しする予定である。有効な補助メニューなどがないか、検討したい。

防災教育に関しても、ハード等の対策だけでなく周知していくことが重要であると認識している。引き続き検討したい。

天本委員：

防災指針に関して、目標はあるか？

事務局：

次回の委員会でお示しする予定である。

平野委員：

災害に関して、自衛隊や警察、消防、ボランティアなどのマンパワーについてどう考え、リスクに対応するか。

事務局：

立地適正化計画の中では、居住誘導の視点を第一に考えて検討してきたところである。マンパワーに関しては、唐津市地域防災計画において検討しているため、基本的には地域防災計画に即す方針であるが、防災指針の中でも触れた方がよいと考えるため、追加することを検討したい。

林委員：

内水のハザードマップの作成方法は計算によるものか？

事務局：

シミュレーションをベースに、現地の状況を踏まえ作成している。

林委員：

内水に関しては、現地の浸水履歴のヒアリングによって、正確で使えるハザードマップを作成することが可能である。作成期間も早いため、可能であれば活用してはどうか。

事務局：

浸水履歴の状況も反映させた形で、他の5地区についても掲載したい。

～以上～